

# ひかりのこ

10月園便り  
聖ミカエル幼稚園  
2013年9月25日発行

## 月主題：伝えあう喜び

朝夕の風もめっきり冷たくなり、ああ、また冬が来るなあ、とため息が出そうな季節となってまいりましたが、子どもたちはやっぱり元気いっぱいでお部屋や園庭で遊んでいます。幼稚園も後期に入り、それぞれの子どもの成長が見られるようになってきました。あと半年で、年長さんは卒園・小学校入学、年中さん年少さんはひとつずつ進級し、お兄さんお姉さんになっていきます。

さて、この季節になると、中学校の担任として過ごした学校祭や合唱コンクールのことをよく思い出します。これらの行事は中学校の文化的行事の柱であり、10月、11月は教師も生徒も本当に忙しく毎日を過ごします。小学校と違って中学校は生徒が主体的に動き、学校祭では演劇や展示物、合唱コンクールでは歌の完成に向け、クラスがひとつにまとまって活動しなければいけません。しかし、お父さんお母さんが中学生の時とは違って、指示待ちで自分からは動けない子、「みんなでやる」ことに意欲を示さない子もいて、「ひとつにまとまる」のもなかなか大変なのです。でも、私は、話し合いの大切さを折に触れて話すようにはしていましたが、行事が始まるとあえてあまり前面に出ず、リーダーに任せるようにしていました。本番の1週間前の切羽詰まったころになると、だいたい女子の中から、「男子がみんなまじめにやってくれません」という声が出てきます。男子の中からは、「俺はまじめにやっているのに！」と憤慨する子もいて、クラスがぐちゃぐちゃになってしまいます。それでもぐっとこらえ様子を見てみると、生徒の中から「みんなで話し合いをしよう！」という声が上がってきます。学校祭の準備は手を止めて、話し合いが始まります。みんなでぐるっと輪になってひとりひとり自分の本音を出していくのです。そうしているうちにわだかまりも解けてきて、いつしかニコニコ顔になって「よし！がんばろう」とクラスがまとまってくるのです。私はこの過程がいつも大好きでした。

「自分の考えを伝える」ことは中学生になっても大変なことです。それができず悩んでいる生徒はたくさんいます。ましてや幼稚園の子どもたちが「自分の考えを伝え」、「相手にわかってもらう」のはうまくいかないことも多いと思います。でも自分の思いを「伝え合って」理解しあえた時はところが弾むような嬉しさです。子ども達にはその喜びをたくさん経験してもらいたいと思います。

私たち教員は、遊びの中で、設定保育の中で、下手でもいいから自分の気持ちを相手の伝えられるよう、そして相手に分かってもらえるようこれからも支援をしていきたいと思えます。

園長 渡部 良子

## キリスト教保育

いよいよミカエルバザーです。すでにご存知のように、このバザーを行う目的の中で一番大きな理由は、聖ミカエル教会が26年前から行っているアフリカへ中古衣類を送る活動を支えるためです。教会は基本的に創造主を信じている人々が礼拝を捧げる場所ですが、クリスチャン達は創造主を信じているがゆえに創造主によって創られた全てに関心を持つようになります。そのおかげで、幼稚園と言う働きもあるわけです。国際青年寮や幼稚園のような教会が拠点になって行う活動もあれば、同じ趣旨で頑張っている他の機関・施設・団体との協力する場合もあります。アフリカへ中古衣類を送る働きは聖ミカエルが中心になって地域の多くの皆様のご協力を得て25、6年を行ってきた働きです。アフリカに中古の衣類のダンボール一つを送るのに、約5千円程度がかかります。新品でもなく、中古の衣類を、しかも5千円もかけて送るといって、効率的でないこの活動の背景には、日本では、考えられない現実があるからです。

例えば、たったの10円玉一つで、バングラデシュの学生1人に一回の給食が与えられます。もしかすると、この給食はその子にとって、その日初めての食べ物で、多くの場合最後のご飯である可能性が大きいのです。10円玉が10個あれば、カンボジアの子どもが使う鉛筆を25本を買えます。そして、10円玉が100個あれば、エチオピアの子ども6人の1ヶ月間学校で授業を受けられます。そして、私たちが送る中古衣類のダンボール一つはアフリカの多くのお母さんと子どもに笑顔を与えます。お金があっても品がない地域では、中古であっても、わが子に新しい服を着させられるという喜びで涙を流すお母さんが沢山います。地球の向こうで頑張っているママ友の笑顔のために、今回のバザーも笑顔でともに。

チャブレン 司祭 ジョシユア 李 香男